

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】

実施内容報告書

受託団体名： 松本市

1. 事業名称

- ・ 基礎的日本語教室を中心とした体制づくり事業

2. 事業の目的

- ① 生活に最低限必要な最初級の日本語支援を、市が様々な機関と連携しながら実施する体制を構築する。
- ② 今後の外国人住民に対する日本語支援に必要となる「プログラムコーディネーター」「日本語ボランティア」を育成するとともに、文化庁が養成している「地域日本語教育コーディネーター」を中心に据えた支援体制を構築する。
- ③ 日本語支援のノウハウを地域の日本語教室に伝えていくと同時に、修了者（外国人受講者、日本人スタッフ）を地域の日本語教室に送り出すことで、市内日本語教室の連携体制づくりにつなげる。
- ④ 外国人住民を地域の中で支えていく仕組みづくりを行う。

3. 事業内容の概要

- ① 行政として、生活に必要な最低限の日本語支援を行うため、最初級レベルの日本語教室を実施する。1日3時間の講義を12回行う講座を年間3クール実施する。昨年養成したプログラムコーディネーター（基礎的日本語教室の運営指導を行う者）を活用し、日本語教室を2か所に拡大し実施する。その際、市出前講座を通じて外国人住民に必要な生活上の情報を提供する。
- ② 昨年より養成しているプログラムコーディネーターをはじめ、日本語ボランティア希望者も引き続き募集し、養成する。
- ③ 教室は、地域の他の日本語教室のボランティアスタッフ等にも見学できるよう公開するほか、作成したカリキュラムや教材を提供して、活動に活かせるようにする。
- ④ 講座の修了者（外国人受講者・日本人スタッフ）を、そのニーズに応じ、最適な地域の日本語教室へつなぐ。
- ⑤ OJT やファシリテーション・スキルといった手法を日本語教室に取り入れていく。

4. 事業の実施体制について

- ① 実施に当たっては、松本市中心公民館（地域の日本語教室を所管）と松本市多文化共生プラザ（人権・男女共生課の所管）及びNPO法人中信多文化共生ネットワーク（多文化共生プラザの運営を受託）とで協働する。
- ② 地域の日本語教室との連携については、教室を相互に見学するほか、必要に応じて松本市日本語教室代表者会議を開催し、情報交換を行う。
- ③ 関係する分野の出前講座については、庁内担当課と調整を行う。

- ④ 保育に関しては、NPO法人ワーカーズコープと連携して行う。
- ⑤ コミュニティFMである「エフエムまつもと」と連携し、基礎的日本語教室についての情報発信を行う。
- ⑥ (株)コプロジェクト・エムと連携し、ファシリテーションの手法を取り入れる。
- ⑦ (有)スマイル・ラボと連携し、OJT の手法を取り入れる。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	佐藤 友則	信州大学／(特活) 中信多文化共生ネットワーク
2	末次 克洋	(株)コプロジェクト・エム
3	赤沼 留美子	(有)スマイル・ラボ
4	春原 直美	佐久市民活動サポートセンター
5	高橋 伸光	松本市中央公民館
6	青木 一晟	松本市人権・男女共生課
7	百瀬 智	松本市松南地区公民館
8	佐藤 佳子	(特活) 中信多文化共生ネットワーク

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 5 月 18 日(月) 13:30-15:30	2 時間	Mウイング	佐藤 友則 末次 克洋 赤沼 留美子 春原 直美 高橋 伸光 青木 一晟 百瀬 智 佐藤 佳子	1.平成 27 年度事業内容についての検討 2.受講者の募集方法についての検討 3.その他
2	平成 27 年 10 月 29 日(木) 13:30-15:30	2 時間	Mウイング	佐藤 友則 末次 克洋 春原 直美 高橋 伸光 青木 一晟 百瀬 智 佐藤 佳子	1.平成 27 年度事業内容の中間報告 2.連携体制づくりについての検討 3.その他
3	平成 28 年 1 月 25 日(月) 13:30-15:30	2 時間	Mウイング	佐藤 友則 末次 克洋 春原 直美 高橋 伸光 青木 一晟 百瀬 智 佐藤 佳子	1.平成 27 年度事業内容についてのふりかえり 2.平成 28 年度の取り組みに向けての検討 3.その他

6. 取組についての報告

取組1:「生活のための初級日本語教室」実施

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ① 既存の地域の日本語教室につながっていない学習者の掘り起し
- ② 生活のための初級日本語の習得

- ③ 地域に住む外国人と日本人の交流、外国人住民同士の交流
- ④ 地域の日本語教室で活用可能なカリキュラムや教材、学習記録シートなどの作成

(2) 取組内容

外国人住民向けに、生活に最低限必要な日本語を習得するための日本語教室を実施する。

- ① 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案を取り入れたカリキュラムの作成(平成 26 年度文化庁事業で作成したカリキュラムを改訂)。
- ② 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案の教材例集を参考にした教材の作成(平成 26 年度文化庁事業で作成した教材を改訂)。
- ③ 「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価のポートフォリオにもとづいた学習記録を個別に作成。
- ④ 日本語学習の機会や情報を得られなかった外国人住民に対して学習機会を提供し、修了後は地域の日本語教室につなぐ。
- ⑤ 最初級レベルの日本語指導に苦慮する地域の日本語教室の負担を軽減するとともに、指導のノウハウを伝える。
- ⑥ 外国人相談窓口である多文化共生プラザを紹介・周知する。

(3) 対象者

日本語を母語としない者で、日本語学習の経験があまりない者

- (4) 参加者の総数 53 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載
 そのうちの日本語学習者数 53 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
14	2	3	0	5	0	2	0	6	0

※その他の国籍と人数:

アメリカ(6)、カナダ(4)、イギリス(2)、パキスタン(1)、ラトビア(1)、ベナン(1)、エジプト(1)、
 デンマーク(1)、アイルランド(1)、フランス(1)、ドイツ(1)、ギリシャ(1)

(5) 開催時間数(回数)

64 時間 (3 時間×全 12 回×2 コース)

(6) 活動の内容

【第 1 期】

<中央公民館>

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 6 月 2 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	6 人	自己紹介	あいさつ・教室用語 名前・国・仕事	佐藤 佳子	

2	平成 27 年 6 月 4 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	8 人	家族	家族の呼称・年齢 電話番号・住所	佐藤 佳子	
3	平成 27 年 6 月 9 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	7 人	買い物	こ・そ・あ・ど 何ですか／いくらですか ～をください	佐藤 佳子	
4	平成 27 年 6 月 11 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	8 人	時間	～時…分 何時ですか ～時から…時までです	佐藤 佳子	
5	平成 27 年 6 月 16 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	9 人	場所	場所の名前(学校・銀行・郵便局・公園など) ～に…がいます／あります	佐藤 佳子	
6	平成 27 年 6 月 18 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	8 人	ごみ出し	曜日・天気の表現 ごみの分別	佐藤 佳子	
7	平成 27 年 6 月 23 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	9 人	生活	生活で使う基本動詞	佐藤 佳子	
8	平成 27 年 6 月 25 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	6 人	交通手段	～へ行きます・来ます・帰ります 交通機関のことば	佐藤 佳子	
9	平成 27 年 6 月 30 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	7 人	カレンダー	～月…日 先週・今週・来週／先月・今月・来月／去年・今年・来年	佐藤 佳子	
10	平成 27 年 7 月 2 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	8 人	食事	～を食べます・飲みます他 食べ物・飲み物の名前 ～が好きです・嫌いです	佐藤 佳子	
11	平成 27 年 7 月 7 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	9 人	日本で感じたこと	い形容詞／な形容詞 ～はどうですか。	佐藤 佳子	
12	平成 27 年 7 月 12 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	9 人	まとめ	日本語で話そう	佐藤 佳子	

<松南地区公民館>

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 6 月 3 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公民館	6 人	自己紹介	あいさつ・教室用語 名前・国・仕事	鶴賀 幸	
2	平成 27 年 6 月 5 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公民館	5 人	家族	家族の呼称・年齢 電話番号・住所	鶴賀 幸	
3	平成 27 年 6 月 10 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公民館	5 人	買い物	こ・そ・あ・ど 何ですか／いくらですか ～をください	鶴賀 幸	
4	平成 27 年 6 月 12 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公民館	6 人	時間	～時…分 何時ですか ～時から…時までです	鶴賀 幸	
5	平成 27 年 6 月 17 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公民館	5 人	場所	場所の名前(学校・銀行・郵便局・公園など) ～に…がいます／あります	鶴賀 幸	

6	平成 27 年 6 月 19 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	7 人	ごみ出し	曜日・天気の表現 ごみの分別	鶴賀 幸	
7	平成 27 年 6 月 24 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	5 人	生活	生活で使う基本動詞	鶴賀 幸	
8	平成 27 年 6 月 26 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	6 人	交通手段	～へ行きます・来ます・帰ります 交通機関のことば	鶴賀 幸	
9	平成 27 年 7 月 1 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	5 人	カレンダー	～月…日 先週・今週・来週／先月・今 月・来月／去年・今年・来年	鶴賀 幸	
10	平成 27 年 7 月 3 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	6 人	食事	～を食べます・飲みます他 食べ物・飲み物の名前 ～が好きです・嫌いです	鶴賀 幸	
11	平成 27 年 7 月 8 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	6 人	日本で感じ たこと	い形容詞／な形容詞 ～はどうですか。	鶴賀 幸	
12	平成 27 年 7 月 10 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	7 人	まとめ	日本語で話そう	鶴賀 幸	

【第 2 期】

<中央公民館>

回	開講日時	時間 数	場所	受講 者数	取組の テーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 9 月 1 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	8 人	自己紹介	あいさつ・教室用語 名前・国・仕事	佐藤 佳子	
2	平成 27 年 9 月 3 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	9 人	家族	家族の呼称・年齢 電話番号・住所	佐藤 佳子	
3	平成 27 年 9 月 8 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	9 人	買い物	こ・そ・あ・ど 何ですか／いくらですか ～をください	佐藤 佳子	
4	平成 27 年 9 月 10 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	7 人	時間	～時…分 何時ですか ～時から…時までです	佐藤 佳子	
5	平成 27 年 9 月 15 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	6 人	場所	場所の名前(学校・銀行・郵 便局・公園など) ～に…があります／あります	佐藤 佳子	
6	平成 27 年 9 月 17 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	9 人	ごみ出し	曜日・天気・表現 ごみの分別	佐藤 佳子	
7	平成 27 年 9 月 24 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	8 人	生活	生活で使う基本動詞	杉田 千織	
8	平成 27 年 9 月 29 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	9 人	交通手段	～へ行きます・来ます・帰ります 交通機関のことば	杉田 千織	

9	平成 27 年 10 月 1 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	7 人	カレンダー	～月…日 先週・今週・来週／先月・今 月・来月／去年・今年・来年	杉田 千織	
10	平成 27 年 10 月 6 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	5 人	食事	～を食べます・飲みます他 食べ物・飲み物の名前 ～が好きです・嫌いです	杉田 千織	
11	平成 27 年 10 月 8 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	7 人	日本で感じ たこと	い形容詞／な形容詞 ～はどうですか。	杉田 千織	
12	平成 27 年 10 月 13 日(火) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	8 人	まとめ	日本語で話そう	杉田 千織	

<松南地区公民館>

回	開講日時	時間 数	場所	受講 者数	取組の テーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 9 月 2 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	6 人	自己紹介	あいさつ・教室用語 名前・国・仕事	鶴賀 幸	
2	平成 27 年 9 月 4 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	5 人	家族	家族の呼称・年齢 電話番号・住所	鶴賀 幸	
3	平成 27 年 9 月 9 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	5 人	買い物	こ・そ・あ・ど 何ですか／いくらですか ～をください	鶴賀 幸	
4	平成 27 年 9 月 11 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	6 人	時間	～時…分 何時ですか ～時から…時までです	鶴賀 幸	
5	平成 27 年 9 月 16 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	7 人	場所	場所の名前(学校・銀行・郵 便局・公園など) ～に…がいます／あります	鶴賀 幸	
6	平成 27 年 9 月 18 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	5 人	ごみ出し	曜日・天気 of 表現 ごみの分別	鶴賀 幸	
7	平成 27 年 9 月 30 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	7 人	生活	生活で使う基本動詞	鶴賀 幸	
8	平成 27 年 10 月 2 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	6 人	交通手段	～へ行きます・来ます・帰ります 交通機関のことば	鶴賀 幸	
9	平成 27 年 10 月 7 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	5 人	カレンダー	～月…日 先週・今週・来週／先月・今 月・来月／去年・今年・来年	鶴賀 幸	
10	平成 27 年 10 月 9 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	5 人	食事	～を食べます・飲みます他 食べ物・飲み物の名前 ～が好きです・嫌いです	鶴賀 幸	
11	平成 27 年 10 月 14 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	8 人	日本で感じ たこと	い形容詞／な形容詞 ～はどうですか。	鶴賀 幸	
12	平成 27 年 10 月 16 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	7 人	まとめ	日本語で話そう	鶴賀 幸	

【第3期】

<中央公民館>

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 11月5日(木) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	8人	自己紹介	あいさつ・教室用語 名前・国・仕事	杉田 千織	
2	平成27年 11月10日(火) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	9人	家族	家族の呼称・年齢 電話番号・住所	杉田 千織	
3	平成27年 11月12日(木) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	9人	買い物	こ・そ・あ・ど 何ですか／いくらですか ～をください	杉田 千織	
4	平成27年 11月17日(火) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	7人	時間	～時…分 何時ですか ～時から…時までです	杉田 千織	
5	平成27年 11月19日(木) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	8人	場所	場所の名前(学校・銀行・郵便局・公園など) ～に…があります／あります	杉田 千織	
6	平成27年 11月24日(火) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	8人	ごみ出し	曜日・天気 of 表現 ごみの分別	杉田 千織	
7	平成27年 11月26日(木) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	9人	生活	生活で使う基本動詞	杉田 千織	
8	平成27年 12月1日(火) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	8人	交通手段	～へ行きます・来ます・帰ります 交通機関のことば	杉田 千織	
9	平成27年 12月3日(木) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	8人	カレンダー	～月…日 先週・今週・来週／先月・今月・来月／去年・今年・来年	杉田 千織	
10	平成27年 12月8日(火) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	6人	食事	～を食べます・飲みます他 食べ物・飲み物の名前 ～が好きです・嫌いです	杉田 千織	
11	平成27年 12月10日(木) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	7人	日本で感じたこと	い形容詞／な形容詞 ～はどうですか。	杉田 千織	
12	平成27年 12月15日(火) 13:00-16:00	3時間	中央公民館	9人	まとめ	日本語で話そう	杉田 千織	

<松南地区公民館>

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 11月4日(水) 9:30-12:30	3時間	松南地区公民館	6人	自己紹介	あいさつ・教室用語 名前・国・仕事	鶴賀 幸	
2	平成27年 11月6日(金) 9:30-12:30	3時間	松南地区公民館	7人	家族	家族の呼称・年齢 電話番号・住所	鶴賀 幸	

3	平成 27 年 11 月 11 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	8 人	買い物	こ・そ・あ・ど 何ですか／いくらですか ～をください	鶴賀 幸	
4	平成 27 年 11 月 13 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	8 人	時間	～時…分 何時ですか ～時から…時までです	鶴賀 幸	
5	平成 27 年 11 月 18 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	9 人	場所	場所の名前(学校・銀行・郵 便局・公園など) ～に…がいます／あります	鶴賀 幸	
6	平成 27 年 11 月 20 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	8 人	ごみ出し	曜日・天気の表現 ごみの分別	鶴賀 幸	
7	平成 27 年 11 月 25 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	7 人	生活	生活で使う基本動詞	鶴賀 幸	
8	平成 27 年 11 月 27 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	8 人	交通手段	～へ行きます・来ます・帰ります 交通機関のことば	鶴賀 幸	
9	平成 27 年 12 月 2 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	9 人	カレンダー	～月…日 先週・今週・来週／先月・今 月・来月／去年・今年・来年	鶴賀 幸	
10	平成 27 年 12 月 4 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	8 人	食事	～を食べます・飲みます他 食べ物・飲み物の名前 ～が好きです・嫌いです	鶴賀 幸	
11	平成 27 年 12 月 9 日(水) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	8 人	日本で感じ たこと	い形容詞／な形容詞 ～はどうですか。	鶴賀 幸	
12	平成 27 年 12 月 18 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	9 人	まとめ	日本語で話そう	鶴賀 幸	

(7) 特徴的な活動風景

取組事例①

【松南地区公民館・第 1 期第 3 回 H27 年 6 月 10 日】

「買い物しよう」

実際に野菜などを並べて、店でのやりとりを想定した練習を行った。

この写真は、授業の合間の「リフレッシュタイム」で行った活動。



取組事例②

【中央公民館・第3期第12回 H27年12月15日】

毎回、最終日には、それまで学習した日本語の表現を使って、自分のことを話したり、日本語による交流を行ったりして、受講の成果を確認している。



(8) 目標の達成状況・成果

① 既存の地域の日本語教室につながっていない学習者の掘り起し

→ 今回掘り起こされた学習者 53 名のうち、既存の日本語教室に通っていなかったものが 42 名いた。講座終了後、市内の日本語教室で引き続き学習をしている者は 15 名である。

② 生活のための初級日本語の習得

→ 12 回という短期ではあるが、アンケートの結果からはほとんどの受講者が「日本語力が向上した」と回答している。しかし、本教室終了後も、継続して日本語学習を行わなければ、生活上必要なコミュニケーションが果たせているとは言えないレベルの者が大半であり、あくまでも地域の日本語教室で学習するためのきっかけづくりとして、受講者に継続学習を促すことが必要である。

③ 地域に住む外国人と日本人の交流、外国人住民同士の交流

→ 教室内での外国人と日本人あるいは外国人同士の交流を図るために、授業では毎回「リフレッシュタイム」を設けた。習った日本語を使ってゲームをしたり、日本の文化を学んだりして、担当スタッフ以外の日本人や外国人受講者同士の交流を図るきっかけとなった。

④ 地域の日本語教室で活用可能なカリキュラムや教材、学習記録シートなどの作成

→ 各教室で使用可能な学習記録シートとインタビューシートを作成した。

カリキュラムと教材については、他教室でも取り入れやすい「活動ヒント集」を作成し、その使い方をまとめた。

(9) 今後の改善点について

今年度は受講者集めに苦心した。また、受講者の中には短期滞在者もいたため、①来日後あまり時間が経っておらず、学習経験がない者②滞日年数は長く、会話はある程度できるが、学習経験がない者の差が大きく、コントロールが難しかった。

来年度は、2 コースに分けて講座を実施しながら、滞日年数が短い者と長い者との交流も合わせて

図っていきたい。

取組2:OJT(On the Job Training)等による日本語ボランティアの養成

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ① 日本語ボランティア希望者の掘り起し。
- ② OJT の手法を活用した、実地訓練による日本語ボランティアの養成。
- ③ 養成したボランティアを地域の日本語教室につなぐ。
- ④ 外国人住民を理解する日本人を地域に増やす。

(2) 取組内容

- ① 外国人住民の背景を知るための研修
- ② 日本語教育の基礎知識を得るための研修
- ③ 「生活のための初級日本語教室」を実施するなかでのOJT
- ④ 講座終了後のふりかえり研修

(3) 対象者

- ・日本語ボランティアに興味がある者
- ・市内の日本語教室で活動している日本語ボランティア

(4) 参加者の総数 67 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 1 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
1	0	0	0	0	0	0	0	0	66

※その他の国籍と人数：なし

(5) 開催時間数(回数)

・ 48 時間 (日本語教育:2 時間×全 18 回、OJT:2 時間×全 6 回)

(6) 活動の内容

【日本語教育】

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 5 月 22 日(金) 10:00-12:00	2 時間	中央公民館	10 人	地域の状況	本事業の説明と目的 地域の日本語教室の現状	佐藤 佳子	
2	平成 27 年 5 月 26 日(火) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	9 人	外国人の背景	松本に住む外国人の背景を知る	佐藤 佳子	
3	平成 27 年 5 月 22 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公民館	8 人	外国人の背景	松本に住む外国人の背景を知る	佐藤 佳子	

4	平成 27 年 8 月 25 日(火) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	9 人	日本語の 教え方①	日本語を教えるってどんなこ と？	佐藤 佳子	
5	平成 27 年 8 月 26 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公 民館	9 人	日本語の 教え方①	日本語を教えるってどんなこ と？	佐藤 佳子	
6	平成 27 年 10 月 22 日(木) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	8 人	日本語の 教え方②	外国人にとって必要なこと・ 大変なこと	佐藤 佳子	
7	平成 27 年 10 月 28 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公 民館	9 人	日本語の 教え方②	外国人にとって必要なこと・ 大変なこと	佐藤 佳子	
8	平成 28 年 1 月 14 日(木) 14:00-16:00	2 時間	中央公民館	17 人	基礎知識と 活動のため のタスク①	日本語の発音	佐藤 佳子	
9	平成 28 年 1 月 21 日(木) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	22 人	基礎知識と 活動のため のタスク②	形容詞	佐藤 佳子	
10	平成 28 年 1 月 27 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公 民館	24 人	基礎知識と 活動のため のタスク③	～ほしい・たい	佐藤 佳子	
11	平成 28 年 1 月 28 日(木) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	27 人	基礎知識と 活動のため のタスク④	動詞	佐藤 佳子	
12	平成 28 年 2 月 3 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公 民館	21 人	基礎知識と 活動のため のタスク⑤	～ている・である・ておく	佐藤 佳子	
13	平成 28 年 2 月 4 日(木) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	28 人	基礎知識と 活動のため のタスク⑥	～てあげる・もらう・くれる	佐藤 佳子	
14	平成 28 年 2 月 10 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公 民館	21 人	基礎知識と 活動のため のタスク⑦	～と・ば・たら・なら	佐藤 佳子	
15	平成 28 年 2 月 17 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公 民館	22 人	基礎知識と 活動のため のタスク⑧	～そうだ・ようだ	佐藤 佳子	
16	平成 28 年 2 月 18 日(木) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	28 人	基礎知識と 活動のため のタスク⑨	受身・使役	佐藤 佳子	
17	平成 28 年 2 月 24 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公 民館	22 人	基礎知識と 活動のため のタスク⑩	敬語	佐藤 佳子	
18	平成 28 年 2 月 25 日(木) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	27 人	日本語の資 格試験	学習者がめざしている「日本 語能力試験」って何？	佐藤 佳子	

【OJT】

回	開講日時	時間 数	場所	受講 者数	取組の テーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 10 月 7 日(水) 13:00-15:00	2 時間	松南地区公 民館	8 人	OJT	OJT とは何か	赤沼留美子	

2	平成 27 年 10 月 8 日(木) 10:00-12:00	2 時間	中央公民館	10 人	OJT	OJTの基本①	赤沼留美子	
3	平成 27 年 11 月 11 日(水) 13:00-15:00	2 時間	松南地区公 民館	9 人	OJT	OJTの基本②	赤沼留美子	
4	平成 27 年 12 月 2 日(水) 13:00-15:00	2 時間	松南地区公 民館	13 人	OJT	OJTの演習①	赤沼留美子	
5	平成 27 年 12 月 24 日(木) 13:00-15:00	2 時間	中央公民館	10 人	OJT	OJTの演習②	赤沼留美子	
6	平成 28 年 1 月 13 日(水) 10:00-12:00	2 時間	松南地区公 民館	12 人	OJT	OJT の日本語教室への活用 を考える	赤沼留美子	

(7) 特徴的な活動風景

取組事例①

【取組 2 のOJT研修と取組 1 の教室実施全体を通じて】

取組 2 のOJTについての講義で得たことを、取組 1 の教室実施の中で活かしながら進めた。コーディネーターがモデル授業を示し、その後ボランティアスタッフがマンツーマンで受講者と練習を展開する。必要に応じてコーディネーターがアドバイスを行っていくので、初めてのボランティアも安心して活動ができる。



取組事例②

【第 17 回 H28 年 2 月 24 日】

日本語教育の講義・第 8 回～18 回は、市内の日本語教室で教えている日本人が顔を合わせる場を作ることとをいちばんの目的として実施した。既存の教室に「生活者としての外国人」を対象とした教え方がすぐに理解され取り入れられるわけではない。そこで、以前より既存の日本語教室から多く要望があった、日本語教育や文法をテーマに扱った講座を実施し、その中で生活に即した練習に落とし込む方法を学んだり、他の教室のスタッフ同士が顔を合わせて情報交換したりできる場を提供した。

この回は、「敬語」をテーマに扱い、基礎的な文法知識と練習方法・活動(タスク)を学んだ。国際関係の大学に進学する日本人高校生も研修に参加した。



(8) 目標の達成状況・成果

※検証方法(アンケートや評価等)も含めて具体的に記載すること。

① 日本語ボランティア希望者の掘り起し

→ 46名のボランティア希望者が集まった。ただし、ボランティアの数が受講者を上回ってしまう回もあり、それが原因で活動をやめてしまうボランティアスタッフもいた。

② OJTの手法を活用した、実地訓練による日本語ボランティアの養成。

→ 昨年に引き続き、OJTの理論を学び、コーディネーターがボランティアを育成していく体制を取った。昨年度の文化庁事業で育成されたコーディネーターが、今年度は指導者となってモデル授業やボランティアへのサポートやアドバイスを行った。

③ 養成したボランティアを地域の日本語教室につなぐ。

→ 46名のうち、現在市内の他の教室で活動している者が14名いる。

④ 外国人住民を理解する日本人を地域に増やす。

→ ボランティアスタッフとして参加した者の多くが、これまで松本市で在住外国人に触れる機会がほとんどなかった。外国人の背景を知る講義を受けて本事業にかかわることにより、今まで気づかなかった課題に気づき、また同時に交流の楽しさを知る機会ともなった。

⑤ 当初の目標には設定していなかったが、日本語教育に関する講座を市内の日本語教室にも開放し、積極的に参加を働きかけることにより、市内の6教室からボランティアの参加を得ることができた。お互いの情報交換の場となり、相互の教室見学を促すなど、教室間の連携に寄与した。

(9) 今後の改善点について

今年以上に他の日本語教室や、これから日本語教室に関わりたい日本人の参加が得られるよう、広報活動を行い、日本語教室間の連携や、人材の掘り起しにつなげる。

取組3: 日本語支援における松本市出前講座の活用

(1) 体制整備に向けた取組の目標

① 外国人受講者には生活に必要な日本語や知識を身につけてもらう。

② 市職員(講師)には外国人住民の現状・課題、「やさしい日本語」による対応等への理解を進める。

(2) 取組内容

日本語支援に係る関係機関との連携体制を構築する一環として、生活と密着した分野の市出前講座を活用する。

また、市職員と事前に打ち合わせを行うことで、外国人住民の現状や、やさしい日本語使用への理解を進める。

また、市の出前講座だけでなく、地域で開催されている講座やサークルに参加することで、日本人住民との交流を図る。

- ① 防災「家庭の備えと地域の連携」
- ② 調理と栄養バランス「日本のお弁当」
- ③ 健康の維持・増進「ストレッチとウォーキング」
- ④ 郷土料理の会への参加「松本の季節の食事」
- ⑤ 福祉ひろば講座への参加「しめなわリースをつくろう」 など

(3) 対象者

「生活のための初級日本語教室」参加者や市内の日本語教室参加者をはじめ、参加希望の者は誰でも。

(4) 参加者の総数 66 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 35 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
11	1	2	0	4	0	1	0	4	31

※その他の国籍と人数：

アメリカ(4)、カナダ(3)、イギリス(2)、ドイツ(1)、フランス(1)、パキスタン(1)

(5) 開催時間数(回数)

27 時間 (3 時間 × 全 9 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 7 月 16 日(木) 13:00-16:00	3 時間	中央公民館	8 人	防災	どんな災害が起きるかを映像で見てみよう 非常持ち出し袋の中身	危機管理課・宮崎	
2	平成 27 年 7 月 17 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公民館	10 人	防災	どんな災害が起きるかを映像で見てみよう 非常持ち出し袋の中身	危機管理課・宮崎	
3	平成 27 年 10 月 20 日(木) 9:30-12:30	3 時間	中央公民館	18 人	栄養 バランス	季節の料理を作ってみよう	健康づくり課・上條	
4	平成 27 年 10 月 22 日(木) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公民館	10 人	郷土料理	郷土料理を作ってみよう	郷土料理の会・小沢	

5	平成 27 年 10 月 30 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	16 人	健康づくり	ストレッチとウォーキング	スポーツ推 進課・上條	
6	平成 27 年 12 月 11 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区福 祉ひろば	12 人	日本の風習	しめ縄リースを作ってみよう	福祉ひろ ば・伊藤	
7	平成 27 年 12 月 16 日(金) 9:30-12:30	3 時間	松南地区公 民館	16 人	子ども のお弁当	日本のお弁当	健康づくり 課・小岩井	
8	平成 27 年 12 月 17 日(木) 9:30-12:30	3 時間	中央公民館	15 人	子ども のお弁当	日本のお弁当	健康づくり 課・小岩井	
9	平成 27 年 12 月 22 日(火) 9:30-12:30	3 時間	中央公民館	14 人	健康づくり	ストレッチとウォーキング	スポーツ推 進課・上條	

(7) 特徴的な活動風景

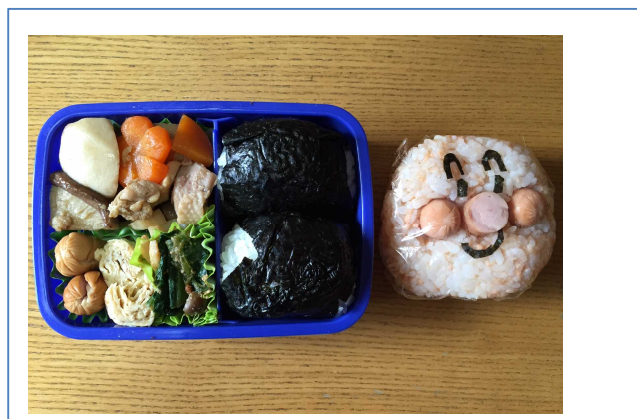
取組事例①

【第 7・8 回 H27 年 12 月 16・17 日】

「日本のお弁当」

子どもをもつ外国の母親(父親)が多く参加しているため、日本の独特の文化である「お弁当」がどういうものかを知り、栄養バランスを考えながら調理し、お弁当箱に「詰める」という体験を行った。

作ったお弁当は、昼食として全員でその場で食べた。市内の他の日本語教室からの参加者もいた。



取組事例②

【第 6 回 H27 年 12 月 11 日】

「しめ縄リースを作ってみよう」

この回は、地区の福祉ひろばで開催されている講座に参加し、地域の日本人とともにお正月に飾る「しめ縄」を作成した。現代家庭でも飾りやすいリースの形にして、自宅に持ち帰って飾った。

外国人住民だけを対象とした講座ではなく、地域で開催されている催しに教室ごと参加することで、ふだんは話すことのない地域住民との交流が図れた。

開催にあたっては、本事業のコーディネーターと福祉ひろばのコーディネーターが打合せを重ねた。

また、本講座開催のきっかけとなったのは、松南地区地域づくりセンター長の提案であり、地域内での連携が活かされた企画である。



(8) 目標の達成状況・成果

① 外国人受講者には生活に必要な日本語や知識を身につけてもらう。

→ あらかじめ受講者のニーズを踏まえて、講座の内容を設定したため、非常に好評であった。理解できない日本語があっても、日本人も外国人もジェスチャーや実物の提示などを交え、意思疎通を図ることができた。

② 市職員（講師）には外国人住民の現状・課題、「やさしい日本語」による対応等への理解を進める。

→ 担当した市職員からは、「打ち合わせや講座開催を通じて、外国人に伝えることの難しさや、やさしい日本語で伝えることの重要性が理解できた」とのコメントが得られた。しかしながら、担当職員が毎回 1～2 名であることから、ごく一部の職員にしか効果を及ぼせなかった。

(9) 今後の改善点について

来年度は、市の出前講座に加えて、地域で開催される講座等への参加をさらに増やしていきたい。また、より多くの参加者が得られるよう、他教室の受講者への働きかけも積極的に行っていきたい。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ① 生活に最低限必要な最初級の日本語支援を、市が様々な機関と連携しながら実施する体制を構築する。
- ② 今後の外国人住民に対する日本語支援に必要となる「プログラムコーディネーター」「日本語ボランティア」を育成するとともに、文化庁が養成している「地域日本語教育コーディネーター」を中心に据えた支援体制を構築する。
- ③ 日本語支援のノウハウを地域の日本語教室に伝えていくと同時に、修了者（外国人受講者、日本人スタッフ）を地域の日本語教室に送り出すことで、市内日本語教室の連携体制づくりにつなげる。
- ④ 外国人住民を地域の中で支えていく仕組みづくりを行う。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ① これまで日本語を学習する機会がなかった外国人が多く教室に参加した。その後、市内の日本語教室に参加した者も多い。
- ② これまでシステムコーディネーターが担ってきた部分の多くを、プログラムコーディネーターに任せ、業

務の分担を昨年度からの予定通り行うことができた。コーディネーターは各所との調整業務を行うことができた。

- ③ 市内の他の日本語教室から、取り組みへの参加や見学があった。また、講座を修了した外国人受講者・ボランティアスタッフが、引き続き市内の日本語教室で活動することで、教室間の連携を取ることができた。
- ④ 限定的ではあるが、これまでお互いに接点のなかった外国人と日本人が、本事業の交流を通じて対話することで、相互理解につながっている。小さな一歩ではあるが、このような地道な活動の積み重ねが、地域の意識を変えていくと感じた。

(3) 地域における事業の効果、成果

- ・本事業で掘り起こした外国人受講者と日本人ボランティアスタッフを地域の日本語教室に紹介することで、一部の教室との連携は非常に進んだ。ただし、開催時間が平日日中であったことから、同じく平日日中に開催している教室へ参加が集中し、市内の日本語教室に広く効果があったとは言いにくい。
- ・終盤に開催した「日本語を教えている人・教えたい人のための勉強会」では、他教室からも多くの参加者があり、その場でさまざまな情報交換もできた。
- ・3月に中央公民館とともに開催した「日本語教室代表者連絡会議」では、今後、市内の日本語教室で協力をして「松本版・日本語教室用副教材」を作成することへの同意が得られた。
- ・取組3出前講座は、昨年に引き続き、松本市役所内の関係課の職員からの協力を得ることができた。さらに、今年度は、地域の福祉ひろばで開催されている季節行事や、市民の有志のサークル活動に参加することで、これまで交流のなかった地域の日本人住民との交流を行うことができた。
- ・昨年度の本事業から派生してできた「松本日本語カフェ(Mカフェ)」が、今年度毎月1回継続開催された。それにより、日本人も外国人も気軽に集まることのできる「居場所づくり」が行われた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

- ・これまでお互いの活動を知る機会のほとんどなかった日本語教室のスタッフ・受講者同士が知り合うことができ、交流や情報交換を行うことができた。
- ・地域の行事に参加することで、「これまで外国人と接する機会がなかった」日本人と活動をともにすることができ、良好な関係が築けた。
- ・今回、会場を2か所に拡大して実施することで、各コースの受講者は減少してしまったものの、開催した松南地区において、多方面からの協力を得ることができた。これまで開催してきた、中央公民館は、市内全域を対象とした公民館であるため、「地域」が見えづかった。今回、地区公民館である松南地区公民館でも開催したことにより、地域との連携が非常に行きやすかった。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・「広報まつもと」や FM まつもとにおける英語放送による広報、市民タイムス・タウン情報等の地域誌を使った告知、松本市多文化共生プラザの FaceBook 多言語ページにおける情報発信などを行った。
- ・松本市子ども支援センターで支援を受けている外国籍児童・生徒の両親に対して、教室参加の呼びかけを行った。
- ・取組2に参加した日本人ボランティア有志が、自主的に地域の飲食店や業務用スーパーなどの外国人がよく集まる場所にチラシの設置を依頼し、多くの店舗の協力が得られた。
- ・しかしながら、受講者集めには苦労をした。一年間の取り組みを通じてあらためて感じたことは、いちば

ん有効な周知方法は「ロコミ」だということである。来年度は、外国人コミュニティの中でいかに周知を進めるかを、さらに工夫していきたい。

・事業成果の周知については、今後市のHP掲載等で行っていく。

(6) 改善点、今後の課題について

・本事業が平日昼間の開催であることから、掘り起こした外国人受講者・ボランティアとも、修了後につながる先が、平日昼間に開講している日本語教室に限定されてしまう。本市における日本語教室の大半が、夜間もしくは土日に開催しているため、それらの教室への「人のつながり」がしづらい。

・本事業では、連携体制を作るために、「人をつなぐことで活動がつながる」ことを目指してきたが、上のような理由もあり、それだけでは体制づくりにはつながらないと感じている。そのため、来年度事業では、「松本版・日本語教室用副教材」を市内の教室と協力して作成することで、連携体制づくりにつなげる。受講者が必要とする地域の情報をともに考え、成果物を作成していくことで、お互いが顔の見える関係となり、課題を共有していくことを目指す。

・地域の日本語教室が共同で開催する勉強会も引き続き行っていく。

・地域づくりセンターや公民館等、地域で開催される行事に積極的に参加していく。地域から要望があれば、自国の文化紹介講座ができる外国人を紹介し、地域における相互理解を進めていく。

・取組1における参加者は、「日本語をほとんど学習したことがない者」を対象に行ってきたが、実際には①来日後あまり時間が経っておらず、学習経験がない者②滞日年数は長く、会話はある程度できるが、学習経験がない者の2つのパターンがあり、同じクラス内の活動で成果を上げることが難しいと感じた。来年度は、参加者の背景に応じた2クラスに分け、レベルやニーズにさらに合わせた活動を行っていく。